

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成果報告書

2024年 8月 5日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 藤 洋作 様

所属部局 工学研究科

職 名 教授

氏 名 金 哲佑

助成の種類	令和6年度・国際会議開催助成		
国際会議名	2024 Asia-Pacific-Euro Summer School on Smart Structures Technology/The 15th International Workshop on Advanced Smart Materials and Smart Structures Technology (APESS 2024/ANCRiSST 2024)		
開催期間	2024年 7月 1日 ~ 2024年 7月 19日		
開催場所	京都大学工学研究科 桂キャンパス船井哲良記念講堂 (APESS2024)および キャンパスプラザ京都(ANCRiSST2024)		
参加者	総数 APESS2024: 105名 ANCRiSST2024: 140名	内訳 APESS2024: 講師(30名), 履修者(64名), 学生スタッフ(11名) ANCRiSST2024: 基調講演(4名), 発表(75名), 聴講(61名)	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有(プログラム)		
会計報告	事業に要した経費総額	5,501,966 円	
	うち当財団からの助成額	820,000 円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 参加登録費	
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	船井哲良講堂使用料	607,400	607,400
キャンパスプラザ京都使用料	340,160	212,600	
	合 計	947,560	820,000
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 貴財団の助成金は、申請から採択までの期間が短く、また、その使途についても柔軟性が高く、他の費用と合算して使うことができる点も、国際会議の計画・運営の面から、大変助かりました。		

## 成果の概要 / 金 哲佑

### 国際会議の概要

- 2024 Asia-Pacific-Euro Summer School on Smart Structures Technology (APESS2024) (2024 アジア太平洋・欧州スマート構造技術サマースクール) は、構造ヘルスマニタリング、構造ダイナミクス、構造制御、データサイエンスに応用される新技術やデータ解析の分野で活躍する大学院生、博士課程学生、ポスドク研究者を対象としている。様々な分野の多国籍若手研究者間のネットワークを構築し、インフラストラクチャーに関する諸問題に取り組み、多国籍共同研究を積極的に推進する場を提供する。2008年に韓国の KAIST で第1回の APESS が開催され以来、米国、中国、インド、台湾、イギリス、イタリアで開催された。
- The 15th International Workshop on Advanced Smart Materials and Smart Structures Technology (ANCRiSST 2024) (第15回先端スマート材料とスマート構造技術に関する国際ワークショップ) は、APESS2024 期間中に、開催された国際会議であり、構造ヘルスマニタリング、データ駆動型構造解析、構造実験の進歩、スマート材料における現在の進歩と最先端技術について議論する場の提供を目的としている。

### 国際会議の実施内容

- APESS2024 は、7月10日と11日 (ANCRiSST2024 開催期間) を除く、7月1日から19日まで京都大学大学院工学研究科の船井哲良記念講堂で開催された (写真1~4)。受講者数は、日本、米国、中国、香港、インド、韓国、オランダ、台湾の8ヶ国から64名の大学院生が参加した (写真4)。また、海外から12名の専門家が、国内からは京都大学の教員も含め18名の専門家が講師として参加した。講義としては、座学31コース、実習・実験11コースを提供した。現場見学の一環として、明石海峡大橋 (写真3) と E-Isolation を見学した。また、本学の大学院生11名も学生スタッフとして参加し、海外の学生との交流を深めた。特に、京都大学工学研究科の大学院生が京都探検を企画し、休日に参加者を対象に京都案内を行った。



写真1 立川工学研究科長による挨拶



写真2 APESS 修了証贈呈



写真 3 明石海峡大橋見学



写真 4 APESS 閉会後の集合写真

- ANCRiSST 2024 は、申請当初は、APESS2024 と同じ会場（船井哲良記念講堂）で開催する予定だったが、京都大学教育研究振興財団国際会議開催助成の採択を受けて、会場を利便性のいい京都駅付近のキャンパスプラザ京都へ変更し開催した。7月10日と11日の二日間にわたって開催された。会議は、4つの意基調講演（写真5）と16のテクニカル・セッションで構成され、基調講演を含む79編の発表が行われた。日本、米国、中国、香港、インド、韓国、オランダ、台湾、インドネシア、シンガポールの10ヶ国から参加し、参加者総数は140名であった（写真6）。
- 大学の宿泊施設の利用が容易ではないことから、京都市内の参加者2人1室の宿泊施設を確保し、提供した。

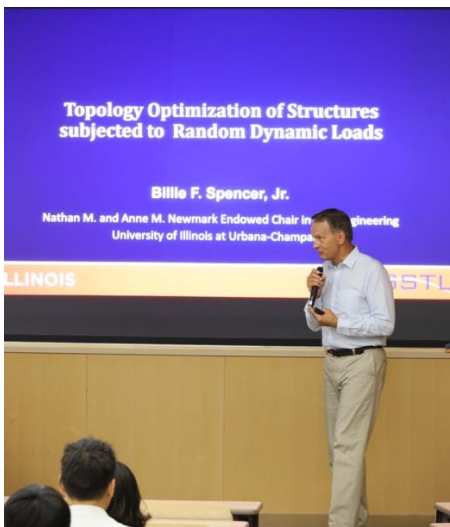


写真 5 基調講演



写真 6 ANCRiSST 集合写真

## 国際会議の主な成果

APESS2024/ACNRiSST2024 の開催によって、以下の3点の成果が得られた。

- 京都大学の認知度向上：今回の開催によって、京都大学工学研究科社会基盤工学の最新研究をアジアのみならず欧米の若手研究者へ紹介することができ、京都大学の認知度の向上につながった。
- 京都大学大学院生への教育的波及効果：京都大学の大学院生も学生スタッフとして、3週間にわたり APESS の運営に関わっており、学生自ら参加者と積極的に交流できた。将来のネットワーク形成にもつながると期待できる。
- 京都大学若手教員のネットワーク拡大：海外から講師として参加した著名な研究

者と京大の若手研究者（博士課程大学院生，ポストドック，助教，准教授）が議論する場にもなっており，京都大学若手教員のネットワーク拡大に繋がった．

## その他

- ☞ 参加者の海外の講師からは，伝統的な京都に京都大のような先端研究機関があることで，先端と伝統が合体した有益な学会であったとのコメントがあった．
- ☞ 参加者の海外の大学院生からは，京都大学の施設や研究を知ることができて，将来には，ポストドックなどの形で京都大学での研究に携わりたいとのコメントがあった．
- ☞ ただし，サマースクール（APESS2024）の会場である京都大学工学研究科がある桂キャンパスまでの交通手段として，最寄り駅の桂駅からバスしかなく，またその便数も少ないため，苦労したとの意見も寄せられた．関連して，欧米や中国での開催の場合，学内の遼や宿泊施設を参加者に提供してきたので，このような国際的なサマープログラムの誘致には，キャンパス内の宿泊施設や遼の必要性を実感した．
- ☞ また，ビーガンやハラールフードを提供するキャンパス内のレストランがなかったため，食事に工面に苦労した．国際的イベント誘致のためには，食の観点からも，多様なニーズに対応できる仕組みが必要であると実感した．
- ☞ 次回の2025年の開催地は香港で The Hong Kong Polytechnic University で開催することになった．

以上